

### みんなでつくる「地域の学校」

○ **教育の目的**…「人格の完成と社会性の育成」

<教育基本法 第1条（教育の目的）>

教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

#### 【白山中校歌】

○ **「純乎志操」**

心情・行動などが、まじりけがなく純粹で「志」がぶれない。与えられた人生において、己のためだけでなく、多くの人々のために、そして世の中のために、大切な何かを成し遂げようとする固い決意を持つ生徒の育成。

○ **「一人の友も置き去らじ」**

仲間と共に学び、共に成長（＝変化）することを大切にし、できないことやわからないことを一緒に解決しながら一人の友も置いていかないという熱い気持ちを持っている生徒も育成。

○ **「忍と耐」**

ただじっと我慢しながら耐えるのではなく、目の前の問題にしっかりと向き合い、逆風に負けず、仲間と協働しながらその解決に向けて一歩でも二歩でも前に進もうとするしなやかさ、力強さを持っている生徒の育成。

学校に関わるすべての人が、校歌に塗り込められた思いを具現化しながら、生徒は「学び」を通して、教職員は「教育」を通して、保護者は「子育て」を通して、地域の方は「地域貢献」を通して自己実現することができる、**笑顔満載の「地域の学校」**をつくりたい。

学校に関わるすべての人が、それぞれの「学び」によって「変化（成長）」し、教職員が、保護者が、地域の方が、生徒のモデルとなり、「学ぶ」ことそのものに楽しさを感じながら成長できる、**楽しさ満載の「地域の学校」**をつくりたい。

10年後、20年後、30年後、生徒が大人になり、地域の担い手となったとき、中学校時代が心の支えとなり、自分の子供や自分の仲間に「私の母校は、すごい学校でした。みんなで支え合い、中学生として本当にやりたいことを迷うことなく一生懸命やることができる楽しい学校でした。」と胸を張って語れる、**誇り高き「地域の学校」**をつくりたい。

本校は、市内の中学校で最も若い学校である。若さとは、可能性・希望である。それ故、学校に対する地域の方々の思いも深い。その力を活かし、独りよがりではない、**みんなでつくる「地域の学校」**にしていきたい。そして、本校に関わっ

た人達が、様々な「学び」を通して、「楽しくてしかたがない」と感じ、「学び合いたい」「誰かの役に立ちたい」「この人に力を貸したい」「助け合いたい」と考え、表現し、一步踏み出し、行動することができる、そんなリーダーシップ溢れる「みんなの学校」をつくりあげたい。それが校歌の歌詞に塗り込められた学校に対する開校以来の地域の熱い思いに応えていくことでもあると考える。以上のことを踏まえ学校教育目標を次のように設定した。

### 【学校教育目標】

「みがき合い・支え合い、心豊かでたくましく生きる生徒をめざす」

### 【学校教育目標とは】

目的と目標は違う。目的とはぶれない軸であり、理想である。目標は、目的のために達成すべきゴールである。本校が目指す学校教育目標は、中長期的な目標であり、学年や学級、各分掌、諸活動等、校内の全ての教育活動が目指す目標となる。それぞれが掲げた目標には、達成できたかどうかの指標が必要となる。それを意識しながら本校の教育活動を進めていきたい。

#### ○ 目標設定の背景

高度経済成長時代が過ぎ去り、長い低成長時代に突入して久しい。消費時代の人材育成は、マニュアル型の人材である。言われたことをとことんやり抜くバイタリティ溢れる人材が望まれた。その後は、**Reduce**:リデュース（減らす）、**Reuse**:リユース（繰り返し使う）、**Recycle**:リサイクル（再資源化）の時代を迎え、スパイラルな持続性を工夫する人材が望まれるようになった。

バブルの頃は国民みんなが幸せになることに一生懸命であった。でもバブルがはじけた後は、「幸せになる」時代から「幸せを感じる」時代への変化が起きてきた。特に2011年（平成23年）の3.11東日本大震災では、30年かけて起こる変化が1年で起こってしまったといわれるほど大きく変化した。その後、日本人の精神性が問われてきた。本来、人間の脳に書き記されている「誰かのために何ができるか」という分かりやすい問いかけをどう行動化できるかが試されてきたのである。

そして成熟社会を迎えた今、答えのない難しい課題に対してもしっかりと問題に向き合い、自ら適切に判断し、最善の行動をとれる生徒に成長して欲しい。自分が所属する集団をより向上させられるように「みがき合い、支え合う」経験を通して、相手の気持ちを考えられる生徒を目指していきたい。

人は一人では生きられない。ましてや現代社会のようにグローバル化が進み、答えの見えない問いに直面する時代であればなおのこと人とつながり、自然の中で生かされていることを自覚していかなければならない。

誰でも人のため、社会のために、自ら果たすべき役目を持っている。そして、生かされていることの意味を考え、その役割を果たすことで自分の良さが発揮される。家族という小さな社会から国家、世界という大きな社会まで人が所属する集団は様々である。その中であって、人とつながり、助け合い、改善のための一歩を踏み出すことが、よりよく自分の役目を果たすことになる。

人のために自分から一歩踏み出し、自分の役目を果たせる人材を育成することは、リーダーシップ教育を推進し、主体的に行動し、他に働きかけられる生徒を育成することである。そして、「知・徳・体」のバランスのとれた教育活動を推進しながら「知ること」「覚えること」「行動すること」「考えること」を通して、「みがき合うこと」「支え合うこと」「思いやること」を意識した「たくましい」生徒を目指させたい。白山中学校は「人間教育の場」であるということを知覚し、「主体的・対話的で深い学び」を通じた地域人材の育成に努めていきたい。

#### ○ 指導方針 「信じる」

勉強したい、わかりたい、楽しい学校生活を送りたい、認めてもらいたい、友達とがんばりたい、よくなりたい、どの生徒も心の中で本気で願っている。しかし、それを素直に表せず、嫌な自分を出すことでしか表現できない生徒も少なからずいるものである。生徒が持つ可能性を引き出すには、ひたすら話を聴くこと、質問することである。一方的に話を入れるだけでは、思いや行動をうまく引き出すことはできない。「傾聴、質問、承認」による「自己決定&行動変容」が、ゴールに向かう生徒を支援する基本姿勢と考える。

#### 「笑顔」と「対話」

相手をコントロールしようとする結果だけが浮き彫りになり、互いに苦しくなるが、相手を理解しようとするれば、解決策が見えてくるものである。例えば、授業中に保健室に逃げていく生徒がいるとき、教室に戻すことだけを考えて「早く教室に戻りなさい！」という相手をコントロールする言葉が出てしまう。しかし、生徒がそれに従わないと両者の関係が苦しくなる。「彼が保健室に逃げ込むのは、なぜだろう？授業がわからないから？先生が嫌だから？親にガミガミ叱られたから？友達とけんかしたから？保健室に気になる女子が来るから？」と考えれば「どうしたの？」という質問から関わりがつけられ、生徒に寄り添う余裕が生まれるのである。「生徒指導が生徒理解で始まり生徒理解で終わる」と

言われる所以である。

教師は専門職である。教育を生業とする専門家がまずやることは、生徒と教育ができる関係を築くことである。どんな金言もその関係がなければ、生徒に入っていくことはない。逆さまになっているコップの中には何も入っていないのと同じである。そればかりか、入れようとすればするほど周りに水が飛び散り、かえって汚す結果となってしまう。大切なことはコップを上に向ける関係をつくることである。

では、「教育ができる関係」はどのように構築すればよいのだろうか。それは、第一にどの生徒も好きになることである。好かれようとする教師ではなく、好きになる教師を目指さすことである。教師も人間である。その合わない生徒もいる。好きになれない生徒もいる。それでも好きになる努力をする教師にはなれる。それは、その生徒の良さを見つめること、「美点凝視」である。一生懸命認めることである。好きになる努力とは、相手の良いところを見て、心に留め、言葉にすることである。そして必ずできると信じることである。

「純乎志操」の学校に罵声や恫喝はいらない。生徒の正面に立ち、上から見下ろしながら対峙する姿で終始してはならない。最後は、生徒の脇に立ち、穏やかな声で相手の気持ちを聴き続け、理解し、どうすればよいかを一緒に考える指導こそ「忍と耐」の学校が生徒を支える姿である。手間暇かけない指導はプロ教師の仕事ではない。「傾聴・質問・承認」というコーチングスキルを駆使し、ゴールを設定し、必ず行きつけることを信じ、「一人の生徒も置き去りにしない」という熱い思いと信念が、指導や支援には絶対に必要である。

#### ○「目指す生徒像」

- ・自ら、共に学ぶ生徒
- ・情操豊かで品位がある生徒
- ・思いやり、助け合える生徒
- ・健康でたくましい生徒

どのような状況下でも「生き抜く力」を身に着ける必要がある。そのためには「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育てていかなければならない。

「確かな学力」を身に着けるためにアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）による学び方を定着させ、自ら思考し、表現し、協働的に学べるようにしていきたい。それが「自ら、共に学ぶ生徒」の実現にもつながってくる。

学習や学校生活の中でわからないときに、「ここまではわかったけど、この先はどう考えればいいのか?」「教えて!」と伝え、「いいよ!」と受け止め、相手が理解できるよう自分の考えを説明(表現)する。わからないままにいる仲間に「大丈夫?」「わかった?」と声をかけ、友達にわかるように説明し、学び直しをする。そういった「学び合う関係」を構築することで「自ら、共に学ぶ生徒」を育成していけるのである。

「豊かな心」を育むために、「情操豊かで品位がある生徒」、「思いやり、助け合える生徒」の育成に努めていきたい。それは、判断力や表現力があり、「思い」を可視化できる生徒である。3.11の後、ACのコマーシャルに宮澤章二さんという高校教員の「行為の意味」という詩が取り上げられた。「『心』を『心遣い』に『思い』を『思いやり』に」というフレーズで目に見えないものを行為という可視化できるもので表現することの大切さを訴えていた。同じように「みがき合い、支え合う」という目に見えない「他者への思い」を行動で表現できる心の豊かさと品位を育てていきたい。

「健やかな体」を育むために、「笑顔」と「元気」を基盤に「健康でたくましい生徒」を育成していきたい。自分の思い通りにならない中でさえ、よりよい方向性を探る強さを持ち、身体が元気、心が元気、「笑顔」を忘れず、心身共に強い、耐心のある生徒を目指していけるように支援していきたい。

#### ○「求める教師像」

- ・ 白山中が一番好きな教師
- ・ 信頼関係がつけられる教師
- ・ 生徒の気持ちが分かる教師
- ・ 学び続ける教師

専門職としての教師は、教育ができる関係を生徒と築かねばならない。その第一歩が理屈抜きで好きになることである。「うちの学級の生徒が一番好き」「うちの学年が一番好き」「うちの学校が一番好き」「うちの地域が一番好き」と思えば、一生懸命働きかけることも、寄り添うこともできる。しかも「教師という仕事が一番好き」になったときに、自分自身を大切にし、周囲に思いを馳せることができるのである。「この生徒」「この学級」「この学年」「この学校」「この地域」のようにいつも自分を外に置いた表現をしている教師ではなく、「うちの○○」と表現し、向き合うことができる教師でありたい。

言葉は「言霊」である。言葉の持つ力を意識し、「うちの〇〇が本当にスゴイ！」と思えるものを毎日認められる教師になりたい。良いレッテルを貼れる教師でありたい。それが信頼関係を築くことにつながる。信頼感を得るための「笑顔」「傾聴」「秘密」「約束」「プロ意識」「言行一致」「アイメッセージ」「謝罪」といった基本アイテムを身に着けた教師が求められるのである。

勉強がわからないまま1時間黙って座っている生徒の気持ち、自分ではどうにもできない家庭環境の中で生活している生徒の気持ち、みんなと同じように動くことができない生徒の気持ち、そういう生徒の気持ちをわかろうとする教師でありたい。漢字を覚えたくないわけじゃない。遅く走りたいわけじゃない。下手な絵を描きたいわけじゃない。親に口答えしたいわけじゃない。悪くなりたいわけじゃない。学校を休みたいわけじゃない。本当は頑張りたい。一生懸命やりたい。勉強が、運動が、学校生活が、毎日が楽しいと思いたい。このように子供たちが毎日訴えていることを察することができる教師でありたい。

時間が過ぎても平気で授業を続ける教師は、子どもの気持ちが分からない。時間を守れない教師は、相手のことを考えていない。「時間」＝「命」である。「時間」を守るということは、「命」を大切にすることである。時間を守ることから始めたい。

教師は専門職。教育のプロ、教えるプロ、育てるプロでなければならない。生徒・保護者・地域の願いに応えるプロ教師でありたい。プロとは、その道に熟を持って取り組み、自己実現する人である。教育で自己実現できる教師でありたい。それには、プロ教師として基本スキルを身につけなければならない。教科指導スキル、道徳指導スキル、学級指導スキル、生徒指導スキル、特別支援教育スキル、教育相談スキル、部活指導スキル等を身につけなければならない。基本スキルのみならず、教師の人間性も高めなければならない。EQを高めること、コミュニケーション能力を身につけ、人と人をつなぐNQを高めることを意識していきたい。教師生活を終えるその日まで感性を磨き、学び続ける熱を持てる教師でありたい。

○「重点目標」

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>(1)「ブランド構築」</li><li>(2)「研究&amp;課題」</li><li>(3)「連携推進」</li></ul> |
|--|

(1) 「ブランド構築」

白山中のブランド力を上げていきたい。「ブランドづくり」＝生徒や保護者、地域の心の中にポジティブなイメージをつくり、感情的なつながりをつくることである。

「白山中のイメージは？」と聞かれたときに「生徒の主体性が伸びる学校」「学力が高く、私学以上に品のある学校」等と評価され、生徒も教職員もプライドがくすぐられ、更なる相乗効果をもたらし、より前向きな活動が組織されていくのである。黙っていてよくなることはないし、何もしないでブランディング力が作られるわけではない。

そこで、以下の各項目を今年度の重点とし、職員、生徒、保護者、みんなで取り組んでいきたい。

① 授業改善（主体的・対話的で深い学び&UD）

- ・ 教師主体ではなく、生徒を主語にした「学び」への意識改革！
- ・ 課題を明確にし、思考をつくる「問い」にこだわる！
- ・ グループでの対話場面を短時間でも必ず設定する！
- ・ 何がわかったか、何ができるようになったかを明確にする！
- ・ 思考が見える板書計画，ノート指導！
- ・ 授業の「振り返り」の時間を設け、課題発見を大切にする！
- ・ 学習課題を青枠，まとめを赤枠のように板書を統一したり，特別支援教育のUD資料集を参考にする！

② 心の教育（道徳，いじめ，生命，思いやり）

- ・ 道徳科としての標準時数35時間の確保！
- ・ 22の価値項目の完全履修と実態に即した価値項目の重点化！
- ・ 考え議論する道徳のための主発問づくり！
- ・ いじめゼロへの挑戦，アンケート（1回/月）と生徒活動の連携！
- ・ 「いじめられる方にも原因がある」「これぐらいで、こんなことになるとは思わなかった。」「ただ見ていただけだから」この三つを絶対に許さない指導姿勢！
- ・ 授業や学級活動の工夫による「いじめ」根絶！
- ・ インクルーシブ教育の研修と障害者差別解消法に伴う基礎的環境整備や合理的配慮，個別の支援計画，個別の指導計画作成等の研修！

③ 安全安心（体力向上，メンタル，防災，食育）

- ・ 運動能力章受章者数の目標値設定と体力向上支援の具体策構築！
- ・ 不登校率ゼロへの挑戦，欠席3日/月の報告と対策会議の開催！

- ・ 教育相談の改善と居場所づくり，適応教室の効果的な運用！
- ・ 小中連携による地域防災訓練，避難所開設訓練の検討，実施！
- ・ 保健と給食活動を連携させ，食と健康に対する意識改善！

④ 生徒主体（行事，生徒会，部活）

- ・ より明確になるように行事のねらいを再考する！
- ・ 各活動のゴールを可視化し，マネジメントサイクルを確立する！
- ・ 生徒会活動，委員会活動における生徒主体の組織運営の推進！
- ・ 学校経営への生徒の参画意識の確立！
- ・ 部活動ガイドラインに即した部活動経営の推進！
- ・ 組織的な部活動支援！

⑤ 三大伝統（挨拶，歌声，清掃）

- ・ 「明るく元気な挨拶」→相手に心を開くような挨拶の推進
- ・ 「美しく響く歌声」→全校体制での歌声活動の推進
- ・ 「心を磨く清掃」→そこを使う人の心を動かすような無言清掃

⑥ 地域貢献（福祉教育・ボランティア活動）

- ・ 「自ら気づき，考え，行動する」ボランティア意識を高め，実践！
- ・ 地域交流も含め，自分たちができる具体的な地域貢献活動の実践化！
- ・ 社会福祉協議会や市民ボランティア団体等との連携推進！

(2) 「研究&課題」

教職を生業としている教育のプロは，常に教育で自己実現できなければならない。プロ教師としての高い専門スキルを維持するためには，学び続ける必要がある。以下の研究と課題に主体的に取り組むことから始めたい。

① 研究テーマ

「自ら、共に学び，活用できる生徒をめざす！」

～主体的・対話的で深い学びの実践を通して～

- ・ 「主体的な学び」とは？「対話的な学び」とは？「深い学び」とは？授業研究により白山型の「学び」を発信していきたい。
- ・ 授業改革の視点で校内研究を捉え，個々の授業スキルの向上を図る。
- ・ 教科部会でとどめず，全校体制で研修を深める。
- ・ 若手研だけでなく，全員が公開する。（行政訪問・授業参観含む。）
- ・ テーマや課題をできるだけ生徒と共有し，一緒に改善する。

② 課 題…「人間関係づくり」（長欠対策）

「インクルーシブ教育」（特別支援教育）



「キャリア教育」(進路指導)

- ・ Q-U検査の活用, SGE (構成的グループエンカウンター) の計画的な実施を図る。
- ・ 授業の中にUDの視点を生かした指導, 支援を推進する。
- ・ 外部講師をできるだけ招聘し, 改善のための切り口を多くする。
- ・ 3年の「進学指導」, 2年の「職場体験」, 1年の「社会人講話」だけが「キャリア教育」ではないという意識改善を図り, 全教育活動を通して, 自己理解力, 他者理解力, 選択決定力, 情報収集力, 思考力, 表現力, コミュニケーション力, プランニング力, マネジメント力等々を身に着けられるよう支援していきたい。

③ 改 善…※新学習指導要領に伴う授業改善のためのOJTの推進

※生徒指導方針の理解と具体的な手立ての徹底

※長欠率の引き下げ

※いじめのない学級経営とQ-Uの活用

※部活ガイドラインの共通理解

※業務改善

- ・ 学習指導要領改訂に伴う趣旨・内容項目・指導法等に関する最新情報の積極的な共有。
- ・ 早めの「報告・連絡・相談」によるリスク管理の実践。
- ・ 危機管理の原則「さ・し・す・せ・そ」を意識し, 実践する。  
→ 丁寧迅速な初期対応 → 「今日行く(教育)」
- ・ 長欠を出さない経営と長欠を復帰させる経営の理解と実践。
- ・ 長欠対策の全校体制を確立させる。
- ・ いじめアンケートの短期実施と3か月間の見守りを確実に実践。
- ・ 部活動ガイドラインの生徒・保護者への理解。
- ・ 定時退勤日(水曜日)の設定と確実な推進。
- ・ 分掌等の割り振りの工夫・改善。
- ・ 会議の効率化の工夫・改善

(3) 「連携推進」

学校だけで生徒を教育できる時代ではなくなった。東日本大震災が私たち日本人に与えた打撃は, 途方もなく大きい, 気づかせてくれたものも沢山ある。大切な人が亡くなることの悲しさ, 絶望感, つながる力の大切さ, 礼儀, 思いやり, 行動することの大切さ, 数え上げればきりが無い。中でも「生き抜く力」や「つながる力」は生徒が身につけなければならない大切な力であるということを再認識させられた。

「みがき合い、支え合い、心豊かでたくましく生きる生徒の育成」のためには、地域の力を学校に入れ、みんなで生徒に関わることが必要である。学校ができること、家庭ができること、地域ができること、三者がそれぞれ連携してできることを考え、取り組んでいかなければならない。

子どもが少なかった江戸時代は、みんなで子育てをした。「子は宝である」というのもそういう江戸時代の少子化が背景にある。現代は、原因こそ江戸時代とは異なるが少子化傾向に拍車がかかっている。江戸時代のようにみんなで子育てしなければ、地域や国が守られない時代になってきている。「教育だけが、国や社会を守り、変えていける。」政治では無理だともいわれている。学校教育や家庭教育、社会教育の充実を真剣に考えなければならない。

そこで保護者や地域、関係機関をどのように入れるのか、カリキュラムをどう位置づけるのかを考え、「社会に開かれた教育課程」「学びの地図」としての学習指導要領を意識して、継続的に実践していきたい。それにより人材を育成するスパイラルがつくられ、確固たる「郷土愛」に根ざした人材が育まれるものと考え

る。

連携推進のための具体を掲げ、計画的に進めていきたい。特に小中一貫については、提示された小中一貫グランドデザインを元に、重点的に進めていきたい。

- ① 小中連携…小中一貫授業、部活、児童生徒活動、生活指導等
- ② 中高連携…高校訪問、高校説明会、中高特別授業等
- ③ 家庭連携…保護者会、PTA活動、部活育成会、家庭教育学級、情報発信  
(HP更新)等
- ④ 地域連携…学校評議員会、学校支援ボランティア、地域防災訓練、ミニ集  
会等
- ⑤ 諸機関連携…行政機関(市教委・研究所・ヤング手賀沼・子ども相談課等)、  
児相、医療、警察等

- 「学校経営基本構想」を具現化するために、次の3つを意識したい。
- ・本校で実践されるすべての教育、分掌活動等に関わる具体的な方策は、この「学校経営基本構想」を受け、教育目標が具現化されるように担当者を中心にチーム対応しながら進めていきたい。
  - ・朝礼やホームページを活用し、「構想」等を生徒・保護者・地域に発信し、共有していきたい。

- ・地域人材ボランティアを含め、できるだけ多くの人材を校内に入れていきたい。
- チームになるために、次の3つを意識したい。
  - ・チームが目指す「ゴール」を設定し、共有されていること
  - ・必要な情報が共有されていること
  - ・一人一人に役目が与えられていること
- 職員室を笑顔にするために、次の5つを実践したい。
  - ・朝の打ち合わせを毎日行い、情報を共有したい。
  - ・「この学校」ではなく「うちの学校」という表現で話をしたい。
  - ・ダメな話で終始するのではなく、ダメをどうするかを話題にしたい。
  - ・業務改善をしたい。(空き時間の使い方, 仕事の優先順位, ライフワークバランス)
  - ・職員室内の情報を大切にしたい。(原則生徒・業者等を職員室に入れな  
い)
  - ・親睦会や職員研修旅行は、参加を原則として考えて行きたい。
  - ・挨拶を積極的に交わしたい。
- 不祥事根絶に、全職員で取り組みたい。
  - ・不適切な指導(体罰, 暴言等)について
  - ・ワイセツ・セクハラについて
  - ・飲酒について
  - ・個人情報の取り扱いについて
  - ・金銭の取り扱いについて
  - ・調査書誤記載について